



逆井のお盆

まだ迎え火も焚かない、
明るいうちにお坊さんが来
て棚経をあげてゆく。そう
いって逆井の人たちは笑顔
を見せる。お坊さんの都合
でそういう習慣になったら
しい。翌十四日の朝早く、
ひと晩水に浸した野菜を細
かく切り、これも水につけ
た米を混ぜ、墓地に持って
いって、留守番の仏様にお
供えする。迎えた仏様たち
とはいっしょに家に戻る。
みんなはだしだったという。
家の上がり口には水を入れ
た盥をおき、足を洗った。



盆棚の下の無縁仏にも、膳をあげ供養します

高燈籠 新盆の家では八
月一日、杉の木を切り出し、
上の葉を少し残して横竹を
渡し、木枠に紙を張った屋
根をつけた高燈籠を立てた。
仏壇と燈籠には縄が渡され
ていた。亡くなった人を導
く目印だった。新盆の家を
二軒ほどのぞかせてもらっ
たが、高燈籠はなく、白提
灯が縁側にぶら下がってい
た。人々の記憶の中にだけ
残っているようだった。
高燈籠を立てることはな
くなったが、一日に親戚の
人や近所の人を招き、馳走
する習慣は続いている。



ガラガラ 真竹を四つ割
にして十字に組み、その真
中にマコモを四角に編む。
逆井を歩くと、家の入り口
や墓地で、左の写真のよう
に花立とセットになったの
が見られる。今では既製品
が売られている。これにお
供え物を上げる。逆井の近
辺ではコシカケともいう。
仏様が休まれるそうである。
十六日は送り盆。十七日
には施餓鬼である。観音寺
では、無縁仏や餓鬼を読経
供養する。人々も集まり、
そこで予約しておいた塔婆
を受け取り、それぞれの墓
地に供える。